

- 立科小学校／午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校／午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館／
午前 11時40分～午後 1時30分
電話 56-0303 (直通)
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

文明の進歩がもたらすもの

～ 先哲先賢の警告に耳を傾ける ～

立科町教育相談員 岩上起美男

百年以上も前、まだ核兵器やAI(人工知能)、スマホなどがなかった時代に、「ファーブル昆虫記」(全15巻)の著者、アンリ・ファーブル(生物学者・詩人フランス 1823～1915)が、「人間は、進歩に進歩を重ねた挙げ句の果てに、いつか文明と名づけられるものの行き過ぎのために、自滅して倒れてしまうのではなからうか。」と案じたそうです。

文明の進歩(科学技術の発達)と人類の平和(人間の幸福)は、必ずしも比例しない、と警告したのです。

1973年にノーベル生理学・医学賞を受賞した動物行動学者、コンラート・ローレンツ(オーストリア 1903～1989)は、自著「文明化した人間の八つの大罪」(日高敏隆・大羽更明訳 新思案社発行)において、「種の危険が特に自然科学者にはつきり見える時代に暮らしている。だから、説教は自然科学者にとって義務になる。」として、「全人類に対する悔悟と改悛のすすめ」を書き綴っています。

ファーブルと同様に、文明の進歩がもたらす危険に対する警告(説教)を発しているのです。

ローレンツの警告は、書名が示す通り、八点に及んでいます。難解な用語が多く、正確な読解という点では心許ない次第ですが、その八つの警告を次のように受け

止めました。

一. 文明化した人間は、多過ぎる社会的な接触のために、非人間的な方法で自らを守らざるを得ず、攻撃性が誘発されており、狭い社会的空間における多くの人間との多重構造的な対人関係によって生じるストレスやプレッシャーに苛々し、他者への攻撃性が強くなっている。

二. 文明化した人間は、自然を破壊しただけでなく、大自然の美しさや偉大さを畏怖する心も荒廃した。人間の利益のために、地球の温暖化や生態系の破壊、大気・水質・海洋・土壌の汚染などによって自然の生活空間を大きく崩壊して、自然を畏れ、敬う心も薄れているのである。

三. 文明化した人間は、人間同士の競争の結果、「反省」というまことに人間らしい行為に専念する時間が奪われ、真に価値のあるものが見えなくなっている。換言すれば、数々の競争を強いられることによって、フィードバック(出発点に戻って、当初の目標や方針、手だて、配慮などの実践状況を見直し、実現していない場合は、修正・調節すべき点を検討し、実行すること。)の余裕がなくなり、自他の行為を省みる時間が奪われ、本当に大切な人間

らしさを見失っているのである。

四. 文明化した人間は、虚弱化によって、感性や情熱が萎縮し、わずかな不快刺激にも耐えられない。すなわち、科学技術の進歩によって心身が虚弱になり、かつての生活様式(住居・食事・服装・交通、情報伝達など)に耐えられないほど耐性(忍耐力)が弱まり、困難を克服したときの厳しい苦勞を通じてしか得られない喜びを感じる人間の能力も低下しているのである。

五. 文明化した人間は、社会的な行動規範を淘汰する能力が衰え、次世代に残すべき大切な行動規範を見失っている。なぜなら、社会が大きくなるにつれて社会的な行動規範は多くなるが、大人の幼児化現象によって、近代文明の内部には、悪いものは除き、良い行動規範を残すという淘汰の作用が存在しないからである。

六. 文明化した人間は、古い文化的伝統とうまく一体化できず、伝統が崩壊しているが、このような一体化の乱れの原因は、何よりも親と子との間の接触が減少しているところにあり、それは既に乳幼児期から始まっている。これはとりもなおさず、乳幼児期からの親子間のコミュニケーションや信頼が乏しく、古い文化的伝統との一体化ができず、世代間の伝承が崩壊している